

減災・防災対策 抜本的に強化を

いざ懐中電灯を使おうと思っても、電池9割が使えない

防災備蓄品 深刻な実態！

東日本大震災や昨年野田市の竜巻災害、南海トラフ地震の予測発表：災害対策は市民の切実な要求ですが、その土台が揺らいでいます。

市議会超党派の議員が質問で取り上げ、改善と計画的な整備を求めてきた備蓄倉庫の状況について、5月27日の市議会全員協議会で『備蓄計画』が報告され、5月30日、市ホームページに掲載されました。

しかしその実態は、「懐中電灯の単一電池808本中、728本が自然放電でつかえない」、「発

電機28台中1

台は修理が必要」、「ろ水機※25基中11基でホース交換が必要。また1基は修理が必要」と深刻です。

それなのにあなたも備蓄しているかのように、市ホームページには掲載されたのです（議会一般質問で指摘し、改善済み）。真摯に反省が欠かせません。

※ろ水機：浄水場等からの直接給水が困難な場合、飲料水確保のために市内の小・中学校のプールの水をろ過するための機器。ろ水機でろ過した水は、基本的には飲料にできるが、水質検査および消毒が必要

減災・防災の強化を一緒に

大震災から3年2か月。『防災危機管理課』の新設。担当職責者に自衛隊幹部を招へい、防災計画の修正、防災訓練に無人ヘリ導入、自治会への防災無線設置：様々な

備蓄倉庫毎の不足品も不明記。不良品も備蓄品としてカウントする：市長の姿勢が疑われます。減災・防災の強化へ、みんなで力を合わせましょう。

取り組みを進めています、市民に『安心』が広がっているのでしょうか。

そもそも、防災計画上、東京湾北部地震による避難者は2万5520人。これは17万市民の15%ならず。にもかかわらず、報告された『備蓄計画』では100%達成時期も

| 備蓄品 | | H25年度末 | H31年度末 | |
|-------|-------------|--------|--------|--|
| 生活必需品 | 毛布 | 60% | 69% | |
| | 生理用品 | 24% | 50% | |
| | 紙おむつ | | | |
| | 乳児 | 0% | 61% | |
| | 介護 | 42% | 50% | |
| | トイレ | 20% | 31% | |
| 食料品 | アルファ米・クラッカー | 53% | 74% | |
| | 粉ミルク | 53% | 63% | |
| | 水 | 37% | 54% | |
| | | | | |



日本共産党市議会議員

小田桐たかし